Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co☆Co

Co☆Co☆Net

第 66 号

2022 年 8 月 25 日発行
発行人：妻鹿 ふみ子
編集人：後藤 麻理子

JVCA (Japan Volunteer COORDINATORS Association) News Letter

＊ *Relay essay* ＊ … … … … 川中 大輔 ＪＶＣＡ理事の巻

（シチズンシップ共育企画 代表）

■ 自発性を起点に据えないボランティアコーディネーション

「僕、やります！」と能動的にボランティア活動に参加したことが私には数えるほどしかない。20 年以上、様々な活動に関わってきたが、友人や知人等に誘われたり頼まれたりして、あるいは何気なく居合わせた場の流れで踏み入れることになったものが大半である。だからと言って、決して受動的にさせられていたわけではない。活動する中で自分なりの意味が生成されて、気がつけばボランティアとしての意志が形成されていったからである。皆さんにもこうした経験はないだろうか。

ボランティアはその言葉の語源から自発的な意志が中核に据えられて理解されている。それだけにボランティアコーディネーションの現場では「どのようなことに興味関心を抱いているのか、あなたは何をしたいのか」「どうしてボランティアを始めようと思ったのか」という問いを投げかけることが多いだろう。行為の前にある程度明確な動機や問題意識があることを前提としている質問の背景には、個人的な合理的判断に基づいてボランティア活動への参加が決定されるという見方がある。

しかし、こうした個人主義的な認識では友人や知人等との日常的な付き合いから始まるボランティアの態様は捉え難い。社会的な相互作用行為としてボランティア活動を認識し、自発的な意志が芽吹いていく過程にも関心を払うべきである。「言われたから…、他の人もやっているので…、何となく…」といった主体性の弱い言葉を必ずしも否定的に捉える必要はないだろう。むしろ、コーディネーターにはボランティア活動とは縁遠い人々との個人的なネットワークを広げて関係を構築した上で、「流れ」で参加する層を引き入れていく働きがもっとあっても良いのではないだろうか。自発性を起点に据えるボランティア理解ではないコーディネーション実践にも目を注いでいきたい。

もくじ

◇エッセイ 川中 大輔 理事の巻 …… 1
◇特集：コロナ禍で行き場を失った技能実習生たち‥ 2
◇コロナ禍のボランティア活動調査報告 …… 6
◇INFORMATION …… 8

【発行】
認定特定非営利活動法人
日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）
東京都新宿区神楽坂 2-13 末よしビル別館 30D
TEL03－5225－1545 FAX03－5225－1563